

「一般社団法人 社会福祉経営全国会議」

管理職養成学校ニュース



2022年11月11日発行 (No.3) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902



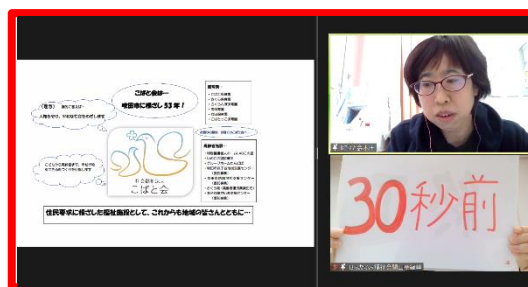
第二回講座を開催



10月27日に開催された、第2講座「社会福祉法人の在り方を学ぶ」の様をお伝えします。講師は養成学校校長でもいらっしゃる佛教大学名誉教授の浜岡先生です。

今年度の第1講座では、新担当講師の垣内先生に導かれながら、管理職としての自分自身を振りかえると同時に、「民主的経営とは何か」という面から社会福祉法人を考察するなど、第2講座に向けての一定の基礎学習の下地が形成されていました。そのうえで、自分たちが拠って立つ基盤である社会福祉法人そのものについて掘り下げ、権利としての社会福祉法人の在り方を学ぶのがテーマとなります。

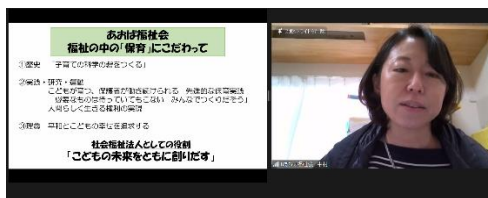
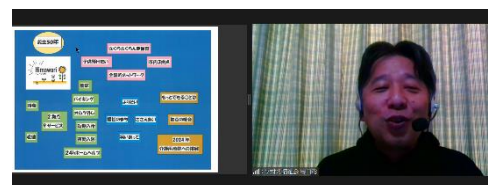
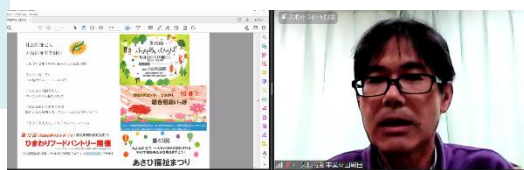
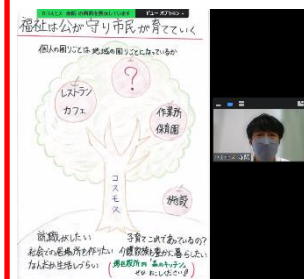
第1講座が終了するや、第2講座に向けての「航海」が始まります。その中身とは・・受講生の皆さんには、開講前に配布された基本テキストや指定資料の読み込みを通じて、社会福祉法人をめぐる外的・内的環境の変化について一定の理解を求めています。と言いますと、何だか大変そうですが、個別学習によるインプットだけでなく、受講生が属する4つのゼミで開催される「自主ゼミ」での意見交換や、自法人の現況の語り合いを通じて、社会福祉法人とは何かをそれぞれに深めていくのです。今年度は、各ゼミでの論議内容や質問項目について講座当日までに浜岡先生に確認いただくこともできました。第1期においても、このような学びの仕組みを講じましたが、第2期は、受講生が一層主体的につながり、文字通りゼミナールらしい自主的な学びが展開されています。



プレゼンは3分間！時間厳守で発表が始まります！

～プレゼンする皆さん～

今回は事前にパネルを1枚用意して、自分で画面共有し、地域の方にプレゼンするという設定です。



さて、当日の午前中は、養成学校恒例のプレゼンテーション。第2講座のテーマは『わが法人の経営理念』と『地域で果たす役割について』です。事前準備として「法人創業者、トップ或いはそれに近い方からお話をうかがう」ことを受講生にお願いしました。それは、とすれば、日常に追われてしまう多くの受講生にとって、「目から鱗が落ちる」時間であり、それぞれの理念を引き継いでいく立場を意識する貴重な時間でもあったようです。そして、迎えたプレゼン本番は、3分間で地域住民対象に法人を語り、地域で果たしている役割を説明する、という「難題」でしたが、全体的に、前述のインタビュー等を活かし、自主ゼミで学ぶ過程を通じて、「社会福祉法人〇〇の一員である自分」というアイデンティティを新たにすることが窺われました。また、浜岡先生

からのコメントでは、地域住民をどのような対象とみているのかがポイントになる」とのお話がありました。何を聞きたいのか、何に困っているのか、地域住民を単なる消費者ではなく、「共に手を携える担い手」として組織化する視点はあったか、このあたりは、次回、第3講座につながる課題と言えるでしょう。

午後は、浜岡先生がリードする特別ゼミナール。多忙な日常で社会福祉法人の在り方を落ち着いて考える機会は中々持てないのではないのでしょうか。養成学校はそういった意味でも貴重な時間となります。前記のとおり予め、自主ゼミを通じて深めるべき論点が絞り込まれていましたが、それらは、「憲法 89 条」「福祉の商品化・市場化」「イコールフットイング」「公益性」というような Keyword に集約されます。1951 年の社会福祉事業法の誕生から、1990 年代後半の基礎構造改革で狙われたもの、それにより、福祉サービスの一供給主体へと押し込まれたように見えた社会福祉法人に対して、なぜ「制度改革」が求められたのか。商品化、市場化された福祉サービスに乗れない層の受け皿として、社会福祉法人に公益性を求める一方で、限りなく営利企業に近い形のガバナンスをも要求する。これらを歴史的経緯の中で押えていくことは中々大変で、とっつきにくいものです。しかし、浜岡先生からの問いかけに対して受講生が答える対話形式で理解を促進することにより、イメージを持ちやすくなったように感じられました。毎年のことですが、学校という集団で学ぶダイナミズムこそ養成学校の本質だとつくづく気づかされるところです。



先生が、直接受講生に質問される場面もあって…

そして、ゼミの終盤には、社会福祉法人をめぐる環境の変化にどう向き合うか、対抗軸をどのように構築するか、社会福祉法人の優位性とは？ といった浜岡先生からの投げかけに対して、グループワークの形で論議しました。その中では、いわゆる障害者の 65 歳問題（介護保険への移行を含む）に対する行政への働きかけという、非常に具体的な実践レベルでの対応などの話がでていました。そして、最後は、社会福祉法人がミッション（使命・理念）として発展させてきたものを、地域住民に対して、エビデンスをもって示すということが必要とされているという問題提起によって、この日の特別ゼミナールは締めくくられました。

1 日の学びを通じて、私たちは、人々の困難に寄り添いそれらを取り除くこと、つまり生活の質を高めるといふ専門性が、社会福祉法人の身上であることを確認しました。それだけでなく、そのことを地域社会に知ってもらうための効果的な取り組みもまた重要であることを再認識しました。前回の第 1 講座に続き、受講生の皆さん



日に日に絆も深まって、グループワークで盛り上がる ONE-PIECE ゼミのみなさん。

には、リアクションペーパーの作成をお願いしています。今回の講座で分かったことや疑問を綴るとき、第 2 講座のプレゼンテーションテーマ『我が法人の経営理念』と『社会福祉法人が地域で果たしている役割』を語る」が何故設定されたか、大いに思い当たるところがあったのではないのでしょうか。この日が新たな学びの契機となり、受講生の皆さんが、それぞれの法人の「理念のバトン」を受け継いでいくことを願いつつ、第 2 講座の報告とさせていただきます。

第3講座 11月24日（木）～25日（金）

京都丹後地方に舞台を移した 1 泊研修となります。長丁場の養成学校もいよいよ山場。関係者のみなさま、受講生への支援を引き続きよろしく申し上げます。

テーマ：「組織運営を学ぶ」

講師：よさのうみ福祉会理事長 青木一博氏
リフレかやの里管理者 藤原さゆり氏
株式会社シオノ鑄工

プレゼンテーション「組織運営」

